

第九たいむず

No.3 2012.6.17 通刊996号 担当 EIBIN

ホームページ:www.takasaki9.com メールアドレス:takasaki9@myad.jp

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX:027-323-0233(団長渡辺) 携帯電話:080-5474-2673(事務局長中村)

◆ 歌の練習とともにスペインを体感しよう!! (編集者同行記)

スペイン料理店で「サルー!! (乾杯)」

(高崎市内のバル探訪)

6月13日、わが第九のズッコケ精鋭5人は群馬で珍しいスペイン料理店を探訪して来ました。目的はスペイン旅行のエチュード。あちらの飲み物や料理に親しみ体を慣らしておこうというもの。お店の位置は、青春の旧ピカデリー通りで旧ビックカメラ店の南側ビル1階奥にあります。屋号は、「バル・デ・エスパーニャ・ピカピカ」。意識すると「つまみながら飲めるスペイン居酒屋」というところ。とりあえずのビールはスペインのビール「マオウ」。とにかくマイルドなお味でした。乾杯はスペインではサルー!! (チンチン! でも)。本番はシェリー酒(スペイン名ヘレス)。



(お店のドルシネア姫を囲んで)

味は白ワインに焼酎か沖縄の泡盛をきつくブレンドした感じ。度数は体感で20度に近く、辛口が主流で大人の味でした。仕上げはワイン。2本を空けました。料理は最初にお通しが3種類ほどあり、スペインオムレツとパテを注文。日本風味にしてあるためか、何の違和感もなくおいしくいただきました。シーフードはイカ墨やパエリアなどがおいしく、時間がたつのも忘れ、仲間の某Oさんは、カウンターに座っていたOL風のお嬢さん方にスペイン公演のパンフを見せて猛アピール。締めには、お店のマドンナ、ドルシネア姫の「ナオミさん」とご満悦に記念撮影したドン・キホーテご一行様でございました。



エビがおいしそうなパエリア



パテ〇〇〇??



イカ墨料理



【お店情報】開店:18時から1時まで。定休日は日曜日。ボックス席は予約をお勧め(10席程度)、他にカウンター席8席は予約必要なし。予算は3,000円~4,000円ぐらい。砂賀町 35 番地 ☎027-325-2839(金・土・祝日前は夜2時まで営業) ※バルとは..スペインの居酒屋

◆【スペイン語講座】 ホンのひと言でも、心が通うことがあります。

おはよう.....ブエノス ディアス、 こんにちは.....ブエナス タルデス 又はオラ!
こんばんは.....ブエナス ノチェス、 はい.....スイ、 いいえ.....ノ、 OK.....バレ
ありがとう.....グラスィアス、 ごめんなさい.....ペルドン、 さようなら.....アディオス、
乾杯(フォーマル時)・・サルー! くだけた友達同士間では、chin-chin(チン、チン)
高い.....カロ、 安い.....バラト、 多い.....ムチョ、 少ない.....ウンポコ

◆【スペイン語講座のご紹介】

☆NHK Eテレ(教育テレビ)「テレビでスペイン語」

毎週木曜日22:25~22:50 再放送 翌木曜日12:00~12:25

☆NHKラジオ第2「まいにちスペイン語」

入門編:(月～木) 初めてスペイン語を学ぶ人対象。旅先でよく使う表現を中心に学ぶ。

応用編:(金)中上級者向け 月～金 7:15～7:30 再放送14:45～15:00

◆今後の予定 ——練習会場にご注意下さい——

※6月28日までは高崎カトリック教会です。

7月・8月の木曜の練習は、高崎市中央公民館集会ホールになります。(冷房有り)

7月22日(日) 旅行説明会+海外特別練習 (高崎カトリック教会) 13:30～16:30

8月19日(日) サマーレッスン 高崎市中央公民館 13:30～16:30 海外特別練習 納涼祭

9月 9日(日) 海外結団式・最終説明会 ホテル・メトロポリタン高崎11:00～

♪イベント情報♪

☆岡村喬生・歌と映画の夕べ6月22日(金)18時開場 前橋市民文化会館小ホール

プッチーニの傑作「蝶々夫人」では日本が間違っで紹介されている!と岡村喬生は憤る。「蝶々夫人」の舞台は明治時代の日本。岡村は、<南無妙法蓮華經>と下から上に書かれた鳥居を持ち、ちょんまげで登場する僧侶をヨーロッパで演じさせられた。その屈辱を晴らし、真の日欧理解を進めようと、独自の台本と演出を引っ提げ、多くの日本人スタッフ・キャストを連れてイタリアに乗り込んだが、オペラ宗主国の壁は厚かった……。『プッチーニに挑む～岡村喬生のオペラ人生』は、オペラへの深い愛を背景に、日本文化の誇りを取り戻そうと挑戦する一人の国際的アーティストの感動の記録である。当日映画上映(88分)後は、オペラ歌手岡村傘寿の熱唱があります。映画のメガホンは群馬県出身の飯塚俊男監督がとりました。

18:30開演、当日券3000円、前売り2500円。詳しくはテノールの林(090-8347-0018)まで

☆合唱団JOY 第8回定期演奏会7月8日(日)14:00～ 群馬音楽センター

見覚えのある顔がたくさん出演します。(^^) 懐かしい歌、日本の歌、組曲「二度とない人生だから」より、ポピュラーオンステージ、「ヨハンシュトラウスの世界」など盛りだくさんなステージです。

ユリヤ先生らの室内楽「トリオ・アンファリア」の演奏もあります。ぜひ応援に来てください。

チケットご希望の方は第九にもたくさんいるJOYの団員まで。チケット代金は1,000円です。

☆第33回草津夏期国際音楽フェスティバルの合唱とオーケストラ 8月26日(日)

ソプラノの小林薫子さんが合唱で出演されるそうです。詳しくは入り口のチラシをどうぞ。

◆スペインのトリビア ゴヤ編

☆ゴヤの息子の洗礼名はフランシスコ・ザビエル。そう、日本の歴史教科書に必ず載っている宣教師ザビエルは、ゴヤの故郷でも偉大なる歴史上の人物だったのです。

☆ゴヤの二枚の「マハ」はあまりにも有名な絵ですが、着衣と裸体の人物の絵は微妙な違いがあります。それは、裸体の方で、顔の位置が後からすげ替えたようで、角度が微妙に不自然です。モデルの名誉のためか本来の顔を変えたのではないかという噂が200年以上囁かれています。着衣の方はうまくすげ替えることができていたので、不自然さが無いのかもしれませんが。その真相は??

◆ここで一息しませんか?



芥川のネタ本はスペインにあった!

【文壇意外史】

芥川龍之介の代表作と言われている「蜘蛛の糸」。そのストーリーのネタはスペインの民話の中にありました。それは「スペイン民話集」エスピノーサ編纂ワイド版岩波文庫326(1,470円)の114ページ、27話「聖女カタリーナ」にありました。

罪を犯し、地獄におちた母親を、早世していた娘のカタリーナが主イエスと聖母マリアの力を借りて、天国に引き上げようとする物語。意地の悪い母親は、自分に続いて天国に上ろうとする亡者たちを蹴り落とそうとしたため、その母親は再び地獄へと落とされてしまいます。そこまでは「蜘蛛の糸」とそっくりですが、スペインの民話では、それを天国の娘カタリーナが非常に悲しみ、再び聖母マリアに頼み、自分も母と同じ地獄に落としてもらったという物語。

見方を変えれば、スペイン民話の方が芥川より深い気がします。皆さんはいかがでしょうか?天才芥川の名誉のためではありませんが、明治の文豪と言われている他の作家の中にも、そのネタ本がヨーロッパにあたりして、芥川の事例はほんの一つに過ぎないようです。ネタ本探しも結構楽しいです。(見つけた方はテノールの林まで教えてください。)